

平成 30 年度

事業実績報告書

本部

業種	本部事務局	
施設の名	法人本部	
開設年月日	平成23年4月1日	
所在地	倉吉市福守町452	
常勤役員数	1名	
正規職員数	8名	
契約職員数	2名	
組織	総務課	人事課 経理監査課
評議員会、理事会の開催状況	<ul style="list-style-type: none"> ●評議員会 1回 (6/26) ●理事会 9回 (4/25、6/11、7/4、9/10、9/27、10/25、12/26、2/5、3/27) 	
事業内容	事業計画	事業実績
基本理念	地域を愛し地域の皆様の幸せのために心を込めて奉仕します。	
基本方針	みのり福祉会の有する多種多様な事業を活用して福祉サービスの一層の充実を図り、ご利用者様、ご家族様、地域住民の方々が集い、笑顔と喜びを共有する地域の福祉コミュニティ「福祉の里」の実現に向かって取り組む。	
1 運営方針	<p>法人の基本理念を堅持しつつ、業務を展開する地域内でのサービス専門性を高めながら、業務運営する各施設の個別性を発揮しながら“笑顔と思いやり”そして“感謝の気持ち”をもって、ご利用者様・ご家族様へのきめ細かなサービスを展開して行く。</p> <p>(1)法人理念・基本方針に則り、地域福祉の総合的な担い手としての施設づくりに努める。 (2)地域の皆様との「つながり」を大事にした開かれた施設づくりを進め、地域福祉の拠点施設として信頼され支持される施設運営に努め、良質な福祉サービスを提供する。 (3)情報公開・個人情報保護に適切な措置を取るとともに、ご利用者様の個別処遇の向上、職員の資質の向上、施設の快適な環境整備等に一層努力しながら、ご利用者様の活動、生活の場としてより良い施設運営を行う。</p>	
2 施設の運営	<p>各施設運営においては「ご利用者様・ご家族様の満足度を上げる」ことを念頭に置き、「法人理念」と「基本方針」をもとに事業計画に沿って、施設並びに職種間の連携を重視し、各事業体が一体となり適切な介護保険サービスの提供を行いながら、常に見直す姿勢とチェック機能の充実を図ることとし、児童福祉施設、障害者支援施設及び傷害福祉サービス事業所、老人福祉施設、居宅介護支援事業所、訪問介護、サービス付き高齢者向け住宅を運営する。</p>	<p>各施設運営においては「ご利用者様・ご家族様の満足度を上げる」ことを念頭に置き、「法人理念」と「基本方針」をもとに事業計画に沿って、児童が心身ともに健やかに育成、身体障害等により支援が必要な者にサービスの提供、又、各高齢者施設が一体となり適切な介護保険サービスの提供を行いながら、常に見直す姿勢とチェック機能の充実を図ることとし、児童福祉施設、障害者支援施設及び傷害福祉サービス事業所、老人福祉施設、居宅介護支援事業所、訪問介護、サービス付き高齢者向け住宅の運営を行った。「施設長等との経営会議に関する運営要綱」を定め、随時、経営会議を行い、事業収入の確保、職場管理、など意見交換・経営に関する指導を行った。</p>
3 法人運営の透明化と情報管理	<p>(1)法人の運営、財務、事業内容などを公開するとともに、ホームページにおいても財務状況、事業内容などを公開し、開かれた法人として、地域、住民の皆様やご利用者様の理解と信頼を深め、公正で活力ある事業運営を推進する。 (2)個人情報に係る関係法令等を遵守し、法人が定めた個人情報保護に対する基本方針に基づき、事業により発生するご利用者様等の個人情報に関し適正かつ適切な取扱いに努めるとともに、運用に係る仕組みを整備し、個人情報の保護を図る。</p>	<p>(1)法人の運営、財務状況、事業内容を法人ホームページ、独立行政法人福祉医療機構のホームページ等に公開した。 (2)個人情報に関し適正かつ適切な取り扱いに努めるように指導するとともに、倫理要領に基づき法令遵守の徹底に努めた。</p>

<p>4 財務規律の強化</p>	<p>(1)平成30年度介護報酬改定に伴う適切な収入源予測や、事業所における施設整備、人材育成と確保等の取り組み内容に基づいた財務予測を行い、財務状況を的確に把握するとともに、適正な資金の確保と安定した経営管理に努め、自立した財務強化を図る。</p> <p>(2)法人及び施設拠点ごとに収入と支出及び試算の状況を適宜確認し、その収益の適宜把握によって予算と事業の執行をより適切に管理するため、次の取組を行う。</p> <p>①会計事務研修会 年1回 ②内部指導監査の実施 全事業所を対象とした経理監査課と人事課による指導及び監査</p>	<p>(1)施設長や出納職員を対象に、会計事務研修会を平成30年11月に開催し、会計規則の周知徹底を図り、適切な会計業務執行に努めた。</p> <p>(2)本部事務局として各施設の内部監査を平成30年10月に実施し、適切な経営管理の執行に努めた。</p> <p>(3)各施設の事業運営を、適宜確認しながら第5次補正予算まで編成することで、予算と事業の執行を適切に管理し収益の確保に努めた結果、対前年比で減収減益の決算となった。</p>
<p>5 人材確保・人材育成力の強化</p>	<p>人材育成のためには、目標管理を伴った職場内教育が大切な役割を果たすことから、教育力・指導力を強化することをプログラム化していく。また、介護の質の維持向上及び事業の拡大を図るため、戦略的な人材確保が必要であり、今まで以上に計画を立て採用活動を実施していく。</p> <p>(1)職員採用計画 職員確保については、育成を含め事業運営推進上、極めて重要なファクターであるため、離職率を低減し、「働きやすく魅力ある事業所づくり」を行い、新任職員並びに既存職員の労働環境の整備を積極的に行い、同時に、就業モチベーション維持向上対策を実施していく。</p> <p>(採用計画) ①福祉就職ガイダンス ②求人誌への募集掲載 ③学校企業説明会への参加 ④学校訪問及び募集要項等の送付</p> <p>(2)研修計画 職員の能力向上を図るため、施設内研修実施は外部講師研修を含めて定期開催する。</p> <p>①関係機関・業界団体主催の研修会・会議 ②新任職員研修 新規採用職員を対象として、業務遂行上の対人援助の意義とそのあり方や、社会人としての基礎を学び、仕事のやりがいを見出すための研修。 ③フォローアップ研修 新任職員研修の拡大展開し研修担当者の評価実施により業務内容や業務管理の進め方等についてフォローしていく。 ④中堅職員並びに管理職員研修 中間管理職等(リーダー以上)を対象として、職員間の連携・協力を主に、指導的な立場の再認識と職種別に必要な資格の取得・外部研修への計画的参加を指導、業務のあり方を検証し総合的理解、スタッフ指導・育成方法等に関する研修を実施する。 ⑤介護職員実務研修 介護職員を対象として、専門技術の向上を図るため、介護現場における具体的な問題を取り上げた専門研修を実施する。 ⑥法人役員の研修 法人全体の運営に関する事項、社会福祉事業に対するニーズ変化に対応するために法人役員の積極的な各種研修参加を提案。社会福祉法人役員研修や国・県・社会福祉協議会 関係各団体主催による研修会などへの積極的な参加を促進する。</p>	<p>人材育成のため目標管理を伴った職場内研修が大きな役割を果たすことから、教育力・指導力を強化するためにそれぞれの職能ごとに専門的な研修を行った。また、介護の資質の維持向上及び事業の拡大を図るためには、専門的な知識を有した人材確保が必要であり、今まで以上に計画を立て採用活動を実施した。</p> <p>(1)年度前半に新規学卒、高卒の採用枠を決定し、ハローワークへの求人票提出を初めとして、公的職業あっせん機関、大学等での企業説明会参加、大学・高校等への求人票送付、折り込み広告などの求人活動を行った。</p> <p>また、福祉の里まつり・保育園の3園合同音楽祭の実施の折、「新聞折り込み」により活動内容紹介と併せ、職員の処遇をPRし職員募集を広報した。 〔H30年度採用実績(H31.4.1採用)〕短大等卒 4名、高卒 3名 その他、年度中途の欠員補充のための補充採用を行った。</p> <p>(2)法人役員及び職員の研修を次のとおり実施した。</p> <p>【職員】 ①新任職員研修 実施日数：2日、参加者：2日計・32名 ②中堅職員研修 実施日数：1日、参加者：33名 ③管理職員研修 実施日数：1日、参加者：30名 ④あいサポート研修 実施日数：3日、参加者：124名 ・その他、外部研修について開催情報を各施設に情報提供し、各施設の判断により所属職員に受講させた。</p> <p>【法人役員】 法人全体の運営に関する事項、社会福祉事業に対するニーズ変化に対応するために法人役員の研修会に参加を行った。</p>

<p>6 ご利用者様の 処遇の向上</p>	<p>ご利用者様の日常の健康管理を充分行い、健康保持と疾病、感染症、食中毒などの発生予防に努める。</p> <p>(1)ご利用者様の体調に変化がある場合は、医療機関と連絡を密にして迅速、適切な措置をとり、安心して施設での活動や生活が送れるよう配慮し、支援する。</p> <p>(2)施設での日常生活において、学びや生きがいや潤いを得ていただくため、各種行事やレクリエーション等を効果的に行うよう創意工夫する。</p> <p>(3)ご利用者様お一人おひとりの権利や尊厳が守られ、明るく、楽しく、穏やかな生活が過ごせるよう努める。</p> <p>(4)ご利用者様・ご家族様の苦情・意見や相談に適切に対応し、ご利用者様・ご家族様のニーズに対して満足していただけるサービスを提供する。</p>	<p>ご利用者様の健康状態を把握し、疾病や怪我などを防ぎ、健康の維持・改善を図り快適な生活が送れるように連携し、健康管理や事故防止に努めた。</p> <p>(1)医療機関と綿密な連携を図り、適切な措置を行い安心して活動や生活が送れるように努めた。</p> <p>(2)ご利用者様が、楽しみながら参加できる行事・レクリエーションの企画、立案に努めた。</p> <p>(3)ご利用者様を主体として、個別処遇に重点をおき利用者の尊厳保持やプライバシーを尊重しつつ、職員の連携を図りご利用者様の満足度の向上と自立した生活を営むことができるように支援に努めた。</p> <p>(4)ご利用者様・ご家族様の苦情・意見や相談を親切丁寧に聞き取りを行い、満足していただけるよう対応に努めた。</p>
<p>7 安全管理及び 衛生管理</p>	<p>(1)防災計画を改正するとともに、対象となる各事業所の水害・土砂災害に係る要配慮者利用施設における避難確保計画を作成し、風水害をはじめとする非常災害対策に万全を期すとともに、災害発生時には、ご利用者様・ご入居者様等の安全確保を第一とし、迅速な対応をする。</p> <p>①作成した避難確保計画を職員に周知徹底するほか、ご利用者様やご家族の方々にも日頃より確認できるよう、掲示板に掲載する。</p> <p>②防災設備の定期点検を励行し、消化訓練や避難訓練を実施して有事に際して万全を期すとともに、ご利用者様の安全を確保する。</p> <p>③大規模災害時における入所施設等の事業継続が迅速に対応できるよう中部地区の市・町と締結した「災害時の要援護者の受け入れに関する協定」に基づく日常的な地域との連携を図る。</p> <p>(2)安全衛生に関し関係行政機関の指導や情報収集、検討会の開催による意見交換等により、衛生管理と感染症対策に取り組む。また、各種研修等を通じて安全点検、見守りの徹底を図る。</p> <p>(3)ご利用者様個々の生活状況を把握するとともに、ヒヤリハットの実践などリスクマネジメントの徹底を図り事故防止に努め、質のよい充実した施設生活を送っていただけるように、安全に配慮したサービスを提供する。</p>	<p>(1)各施設が行う火災訓練・災害訓練においては、本部担当者が参加し現地指導を行った。また、水防法等の一部改正により要配慮者利用施設における避難確保計画の作成が義務付けられたことに伴い、各施設ごとの計画作成の指導を行った。</p> <p>①地震発生後における初動対応を迅速に行うことを目的に、初動職員の把握や応援要請方法、緊急時の移動方法、非常時の安否確認体制の確立等の検討見直しを行った。</p> <p>②本部と連携しながら地震を想定した避難訓練を各事業所で実施するとともに、利用者様及び職員の安否確認訓練を実施した。</p> <p>(2)関係行政機関の情報により各種研修会を実施するとともに、衛生管理と感染症対策に努めた。</p> <p>(3)「気づき」の観察力を高めるため、ヒヤリ・ハットを実践することにより、リスクマネジメントとして分析し、事故防止に努めた。</p>
<p>8 地域社会との 連携・交流並びに 地域貢献の取り 組み</p>	<p>事業所毎の特性・特色を活かした施設機能等の地域還元や社会福祉法人の使命に照らした社会貢献活動への協力をしていく。</p> <p>①地域での介護予防教室(地域支援事業)の開催 近隣自治会や町内会への働きかけを積極的に行い、身近なテーマで施設職員による講習会等を実施し、地域に施設の顔が見える取り組みを強化する。</p> <p>②ボランティア等の受け入れ 中学生を対象とした職場体験や高校生・大学生を対象としたインターンシップ体験を積極的に受け入れ、幼児、高齢者、障がい者への理解を深めてもらうと伴に、保育所や付記し施設の現状を知っていただく機会とし、参加型福祉コミュニティの形成に寄与する。</p>	<p>事業所ごとの特性・特色を活かし社会福祉法人の使命に照らした社会貢献活動を実施した。</p> <p>鳥取県が創設した『あいサポート運動』を法人として推進するため、職員124名があいサポート研修を受講し、障害のある方を日常的にサポートするあいサポーターとして登録され、みのり福祉会が『あいサポート企業(団体)』の認定を受けた。</p> <p>①地域での介護予防教室(地域支援事業)等への参加 倉吉市社会福祉協議会・地域包括支援センター等と連携し、特別養護老人ホームから介護職員が地域自治会の高齢者グループの行う介護予防活動に参加し、地域自治会への支援と交流を図った。</p> <p>②ボランティアの受入 中央高等学園専修学校との交流会を行うとともに、毎月、傾聴ボランティアの受け入れを実施し、夏休みには、中学生、高校生のボランティアの受け入れを実施した。</p>

	<p>③総合相談支援窓口の設置 地域の中で生活する幼児、高齢者、障がい者に対して、日々の困りごとを気軽に相談できる総合相談支援窓口を設け、早期に適切に対応し、高齢者、障がい児・者等の生活の安定に貢献する。</p> <p>④地域住民との交流・相談の場「ギャラリーみのり大山」 みのり大山ロビーを趣味の画廊として一般公開し、地域交流の場として活用してもらいながら、施設ご入所者様、ご利用者様、ご家族様とスタッフが、地域の方々と触れ合う場所を提供する。</p> <p>⑤公益的活動の観点から各施設が所属している地域の祭りや地域行事等に積極的に参加する。</p>	<p>③総合相談支援窓口の設置と活動 倉吉スターガーデン内に設置した「地域福祉相談支援事業準備室」を「地域福祉相談支援事業推進室」に改称し、施設入所の相談2件、生活困窮1件、健康相談1件、認知症・相続相談1件、相続相談1件、小鴨地区介護関係会議依頼、高齢者のたまり場開所支援2件など福祉に関する相談に対応した。</p> <p>④地域住民と触れ合う窓口 みのり大山ロビーに開設した「ギャラリーみのり大山」において、施設ご利用者さま、地域で創作活動ををされている個人・グループの絵画展・写真展等を14回開催するとともに、参加形式の折り紙教室・手芸教室・みんなで歌おう会を行い施設ご入所者様、ご利用者様、ご家族様とスタッフが、地域の方々と触れ合う機会が増え、交流の場となっている。</p> <p>⑤地区恒例の夏祭り及び地域の行事、清掃活動に参加した。また、福祉の里周辺施設の職員で毎月1回、道路及び周辺の清掃・環境整備活動を行った。</p>
<p>9 施設及び事業運営に関する課題</p>	<p>(1)介護事業に係る定員充足の促進 定員充足を目指して、地域包括センター、医療機関等との密接な連携を維持するとともに、地域・住民の皆様との連帯を深めることに努め、信頼される施設としての利用の増加を図る。</p> <p>(2)施設整備の実施 各施設の改築、改修及び修繕等について、適切な施設環境を維持するため施設整備計画に基づき年次的に整備を行う。</p> <p>①みのり保育園園舎耐震及び増築について 昭和48年5月建築の園舎は、職員室が2階にあるため、来園者の出入りがチェックしにくく、玄関横の保育室へ職員室を移動させ、それに伴う保育室の増築を行うとともに、耐震診断の結果を受け園舎の耐震工事を行う。</p> <p>②各事業所車両整備について 老朽化に伴う送迎車両の入れ替えを行う。</p> <p>③機械・器具等買い替えについて 老朽化等により不調となっている機械・器具並びに買替時期を迎える機械・機器についての買い替えを行う。</p> <p>④介護ロボット導入について 現在、介護ロボットは大きく3つの種類に分けられており、介護支援型、自立支援型、コミュニケーション・セキュリティー型となっている。介護ロボットの価格が高いこと、コストや手間が掛かる事、費用対効果が現れにくい等問題があり、導入に向けてこれらに係る問題を検討、検証し、より実用的で安価な介護ロボットが導入できるよう介護ロボット導入プロジェクト委員会を立ち上げます。</p>	<p>(1)介護事業に係る定員充足の促進 特に通所介護事業所(デイサービス)については、各施設の経営状況を確認しながら、法人として安定した運営を行うため、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、医療機関との連携を図りながら、地域・住民の皆様と連帯した魅力ある、また、信頼される施設となるよう努めた。職員の介護技術の向上と連携によるご利用者様の満足度の向上を図った。</p> <p>(2)施設整備の実施 各施設の改修及び修繕等について、適切な施設環境を維持するため施設整備計画に基づき年次的に整備を行った。</p> <p>①みのり保育園園舎新築について 昭和48年3月建築の園舎は、耐震診断の結果、耐震性がないと診断されたことに伴い耐震工事と合わせて増改築工事を行うのか計画を大幅に見直した結果、耐用年数等を勘案し、新築工事とへ変更し、平成30年10月起工・令和元年度5月に竣工した。</p> <p>②各事業所車両整備について 老朽化に伴う送迎車両の更新を行った。</p> <p>③機械・器具等買い替えについて 老朽化等により不調となった空調機器、トイレの洋式化及び建物の修繕並びに買替時期を迎える機械・機器についての買い替えを行った。</p> <p>④介護ロボット導入については、介護ロボット導入プロジェクト委員会を立ち上げて関係事業者のプレゼン検討、導入法人の現地視察など行った。性能・活用の利便性など、課題があり特定の介護ロボットの選定には至っていない。</p>